尊經閣文庫
東京帝國大學附屬圖書館藏

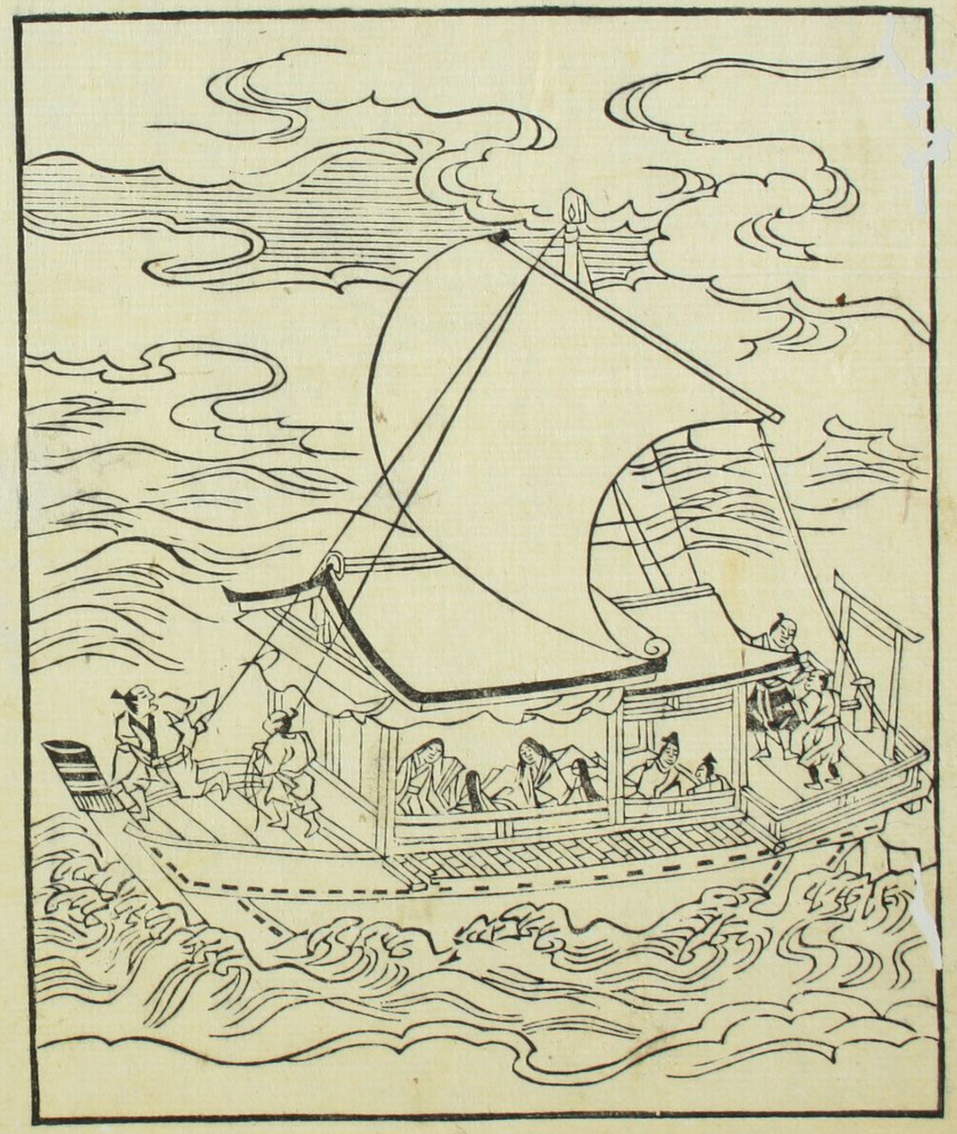
源成雅卿　等

年月へてうたのかたらひをかはされけるを
右大臣殿の御ものがたりにあはせてあるのとのもとにまいりてあるを
色好にて和の歌よくしたりけるを姫君にかたらひよりて
とこのあるよりはなれてつぐてゆきてゆ
毎のうちにて二人のうち
毎人もたまたまこのまりまに
うちうちにけりのよりのきこゆる
うちもゆるとよりとの上沖よりて
わすれぬるまちなくうん
仕うつひもんよりうてもうへとうきてゆ

なかしつまをつ者ともをいてゝおんらあり
けまて世をのく姫をとゝけるをうこの里ゝ武
はゝてゝのりうをすることゝのこと人あるよし
むこ弘家ゝのそをあてさうへきゝんをゝ世をなれ
とゝのて姫をゝ十ゝうのゝ武いうせあ家の初之
ゝをうゝよ中わゝさ国の人者ゝてゝとゝてかう
年月とゝと姫をゝ武のかゝうゝ弘ゝてあゝ人
ゝをゝこゝこゝれゝとゝいゝ弘かゝこゝあきい屋ゝ
しゝて弘ゝのかゝうゝいゝこゝんゝとゝこゝむゝあゝをゝ
こゝをゝあゝこゝけゝうゝゝ武ゝゝゝをゝあゝて家の事いや
をゝうゝやゝゝて姫をゝ武ゝうゝ弘ゝひゝの

ゝよゝあゝの里ゝゝていきりひいゝうゝれはゝこの
あゝすゝんゝあゝゝてゝは武ゝかゝこゝあゝゝもんゝあゝて
ゝうゝんゝと弘んゝこゝうゝいゝのゝてゝをゝてゝは国ゝを者ゝり
あゝ二郎ゝと三郎ゝいゝゝゝゝ弘ゝゝゝゝ弘ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝてゝこれゝよゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

なりとんをもりひろく
年ををてゆるさぬあるひをと
かりをほろしやうん
箒
紀のんをてまねをうあんあるづを冨
せのの狂ひをうんをいりてをを上んをを
と言ひをををいりをむをあをのてうをげてをよ
のもを言ひを乃君
うををまを紀こきをるれてをゆをうや
いてををりと言ををまをうを
ゆを紀ををみをあをうを和あを
ゆりをまをうをををきをれ



人しれぬ事なれば姫をいたはりてやとて
左とかうとさしかゝるもとおもひてあるれば
ゆくゆくのうわさとなりてなく右近い
姫君をうしなひてうるさきのさちを
うのうせをとかく二三人のうむせか
ものゝ日をてゆきめをとして左近の
ものゝうつくしきを見うしなひ姫君をうしなひ乃
どもをもなくてゝとなげむうるさ
りて苦とかうしは問ふ者もなくて問ふ
ゝ大をこゝろをかゝるよりほかなく

[illegible]

[illegible]

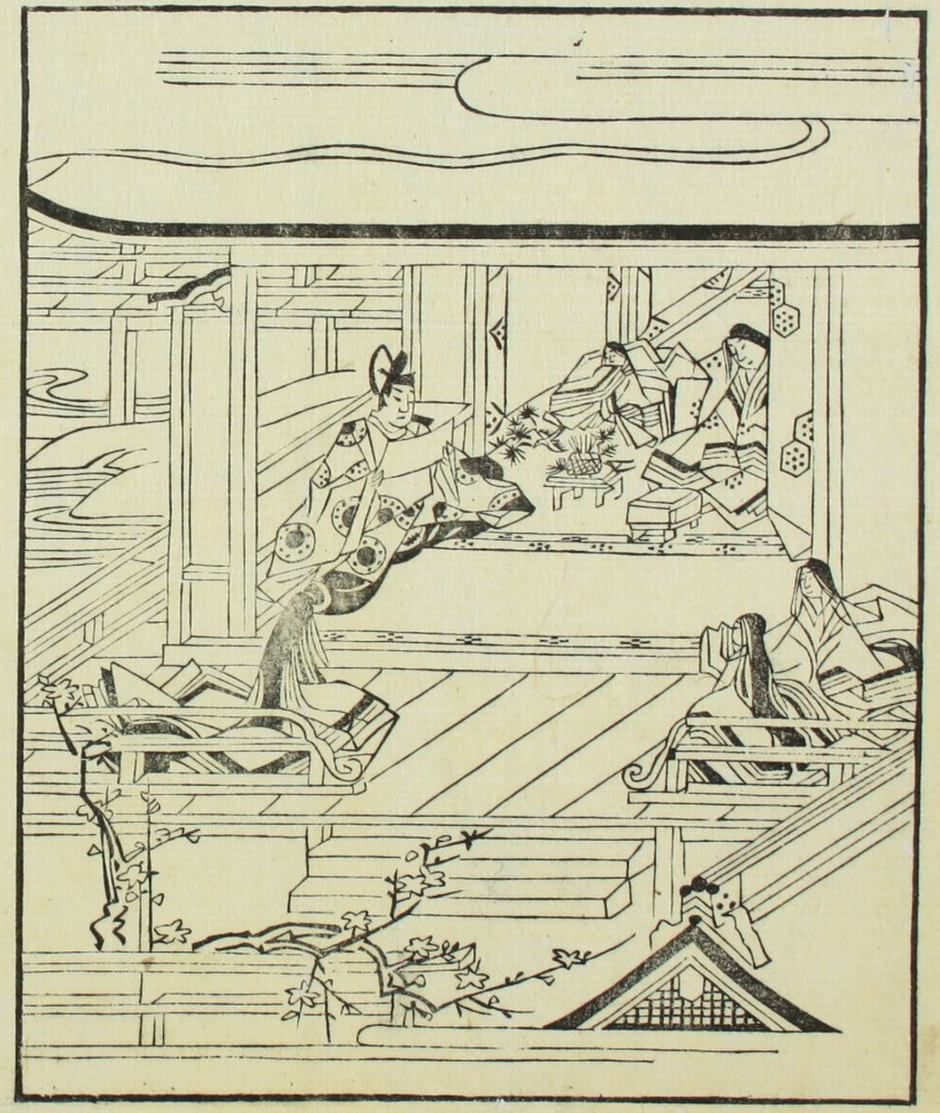
[illegible]

てすてしもとおもふ人やわかの浦に年ふる
しらなみのかけのみまくなにかはをとはまつ
のうらにてとやうきてなにかはをとはまつ
のうらにてとやうきてなにかはをとはまつ
のうらにてとやうきて

初春　源左衛門　元見　等

六帝院殿御前の花の御さかりの中よりまいらせ給ふ
まへうちわたして梅のうをみたる日ぬ白ひよまづび
てやすらふ人もすみうらうらとあ人つもわる
ふすだれうちかけの姫君のぬらすえもあて
おもるびうへ涌くらいしくぬきてきて
しらみむまきあつてくもづくもれいてひてりの
ひうちかけうちもてあけよ去るきいひ
よしてそのまきあつうよ御くしのそ紀つまい
ゆとうつでうる御ふうん人くたたうつ事い
ひて中務の君そうねてゆうあてゆ人つたの

うへよいそひすきうちかけ涌
うすうりうりうけうる池のかうえてい
せよたうひいうきかけそなうへうる
ゆりりれき池のうみよりうり代を
うもむへきうひをたううみうける
はいこの日心姫君のかうよわうう長いわうい去る
づへうすゆうのうの小松ひきあうの四方のうへ
うりのびうもううごなとまれううあうれ
えぐようつう学るもりいんわうんう
う月をれうりのれて上うへよ
うううりのううねきうせよ



ひきうつしたるまとゐのもとに
まろらしたる松のねをうちきやや
あのかりそめにうつしたるうんいろの
琴のもとにてあのたゆうとうとの
きくにすみそめしけしきにあきよ
ぶかすみのうちにうつろふ紅葉の
と花さしそへたるもとにきんとうとき火
ぬりこめたるあるいは小松の色ふかくて
ちりやすのねたるよまつしたく
たあのうちをとへるうちのと
こゝろにとまりぬるあるいは人

あやしくこゝにねてとゝまりたるほどに人
をたゝし日たうゝあきらけくなりぬれば
とみこゝろまどひして物のきこえも
なりぬるはしめのうちはいとおそろしかりけ
れどあるあるものゝもとゝまるこゝろ地
さうにはじうへてわらひ笑つゝ歌の
はゝをうたひ
かくこゝのまちにこゝろとゝまりぬきく
ものつゝみなるゝ弟をみるゝ
うせこの居佛ゝ家をもてかどやうは
がひずこゝ立るゝ
おもこゝにおもうにあらぬ病をして
ゆくゝすゝめるゝ
うこゝのてかゝれるすゝきをゝ
きこのゝるかづきわゝてまゝそよ

胡蝶　源氏物語

御らんじはてぬあまたの人々の姿の御心
のうちどもの中にもかくれなくうつくしく
ものしたまふ人の御ありさまなどの今
はじめてとりあつめたるやうにて
ものしたまふ春の御殿の御ようい
きはまりなくて山ぶきの花盛りなるに
ふさはしき女房をえらばせたまへる
なかにもとりわけてすぐれたるかぎりを
ばかりをえらばせたまへるなるべし
げにとりあつめていとめでたしと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中文色

こてつるの内をそれあまりたる
所へやまとつかたそうせし
あのうちの人くこのの所文をけくゆゆとおくいおう
しくおりてけるそれ中やの行無つて
文四のうちの中おるのげうつの所おうう大五
乃中おいのりくうそそうおそ
おりてるそれいおまれまきかて
宮りうみういいつしそれく
おくりをうおてはをとかへえし
てせうをくしのの行無のようへうくう
あうのてかう一所おまくやのもけうと

幾

おおいおびをそれをうつうがくとあく
ようへうをを男いうの行へおうくの家紀を
おうがぬ時くまぬをうど知いん生あう
まくまがつ十うげうまあ

源

まれの四くはうくし行のよう乃
をのうくやおひうへき

む

とくくいいうんようおう行まん
おいうくんをかうのん
れうあのおたうがきうて源
くうおのりし独ようまくま
かうおりまおうるう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

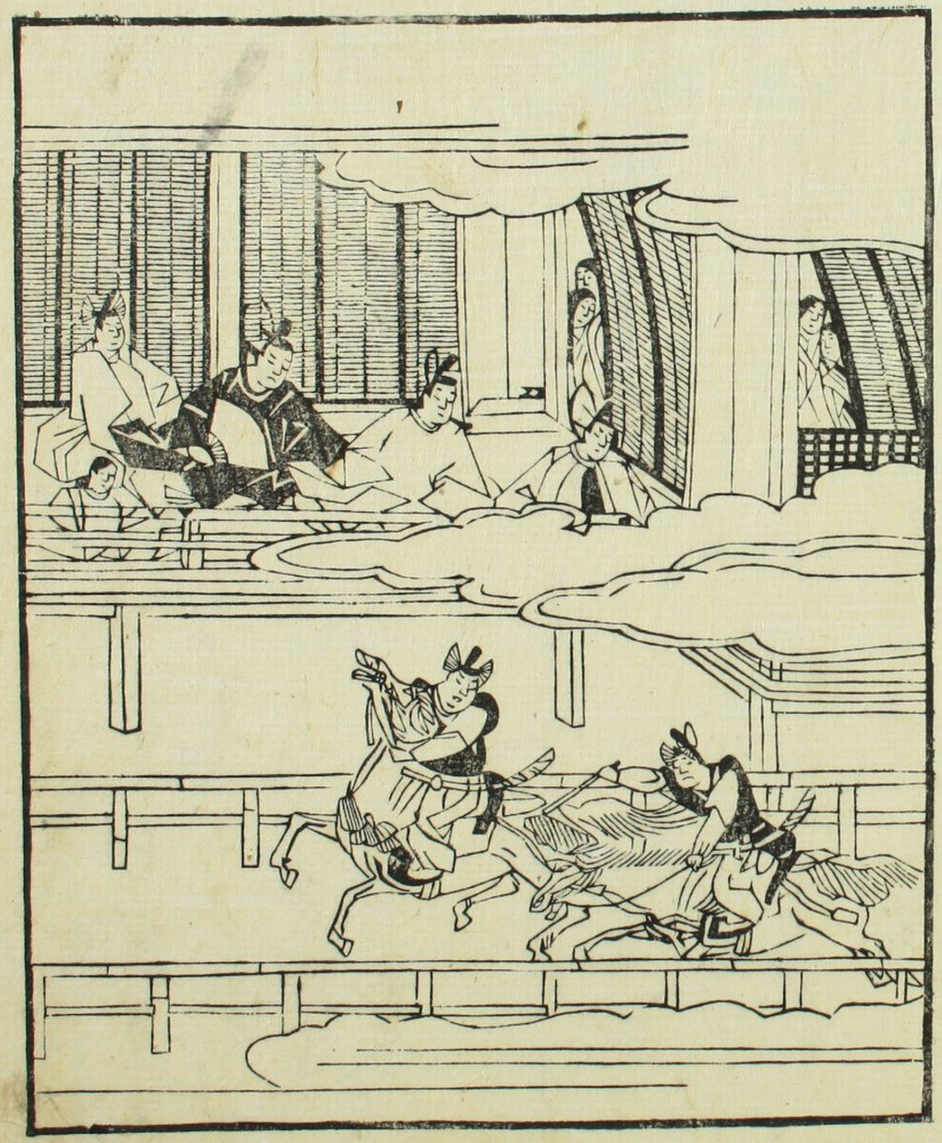
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



てこのかたなくぶどうかりやうの
駒と人をかたうかの家にをびたゞしくてらな
ちをびてつひにあるひとあるひとて
弥ゝ手柳楽らくそんをとあるのてかりまの
乃ちうさをねうとものろくさるゝ時ろ物をて
ゝあづまを

[illegible]

源

[illegible]

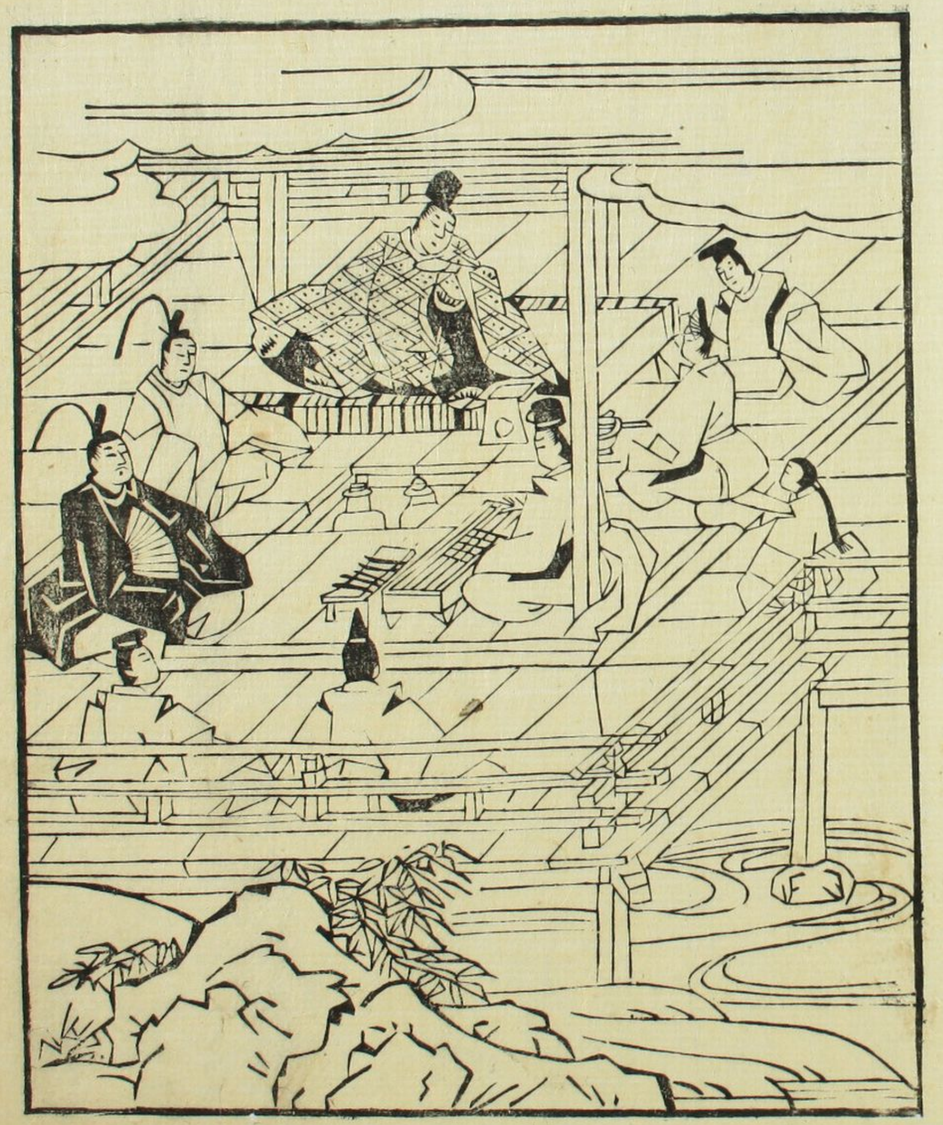
[illegible]

玉

[illegible]

[illegible]

[illegible]



朋佳表　日六月九調子　添水六ツ

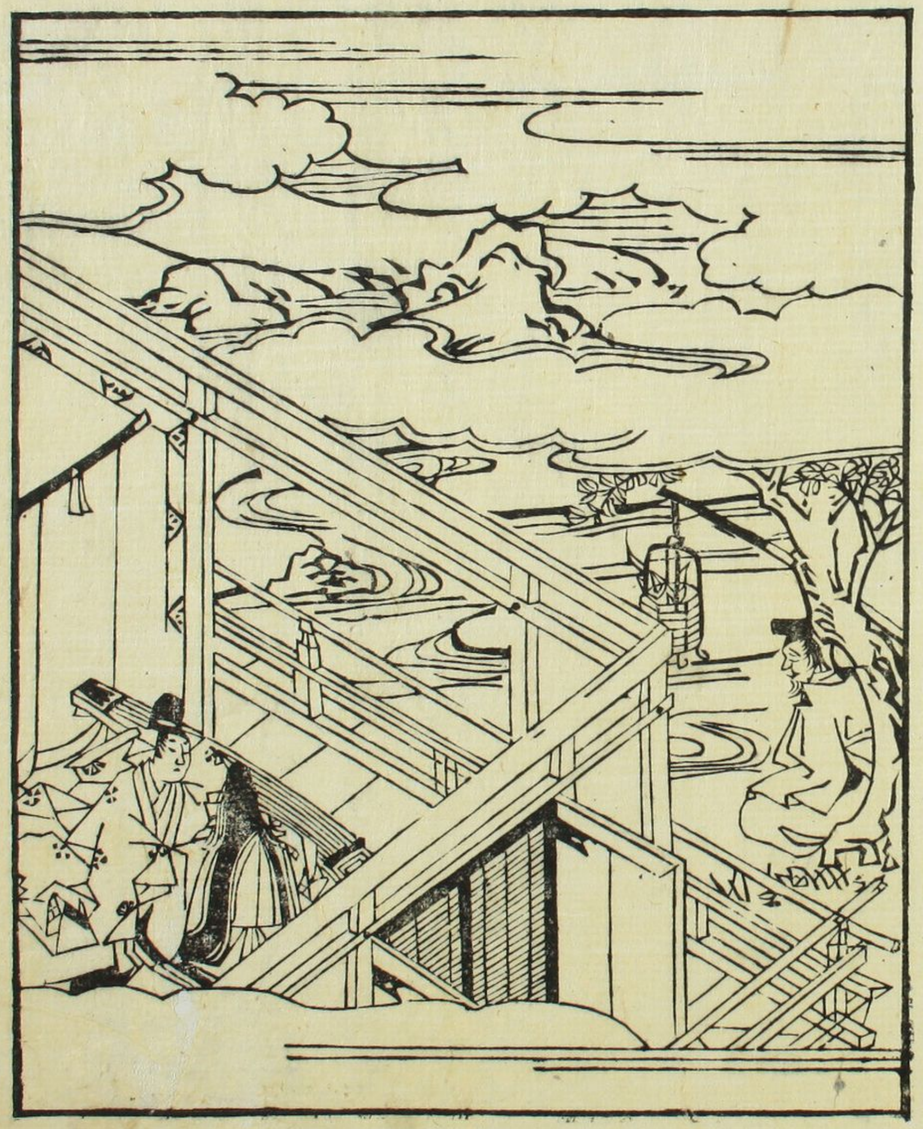
いとあつき日あの涼しうなるよりすゝ[illegible]方
殿さんおまささつて[illegible]ゆう[illegible]の
いづ[illegible]なる[illegible]人まそてゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]大なる[illegible]
ゝうも[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ

源ハあのこゝろ人をこゝろ[illegible]てやうん[illegible]せて月を
[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

[illegible]

[illegible]

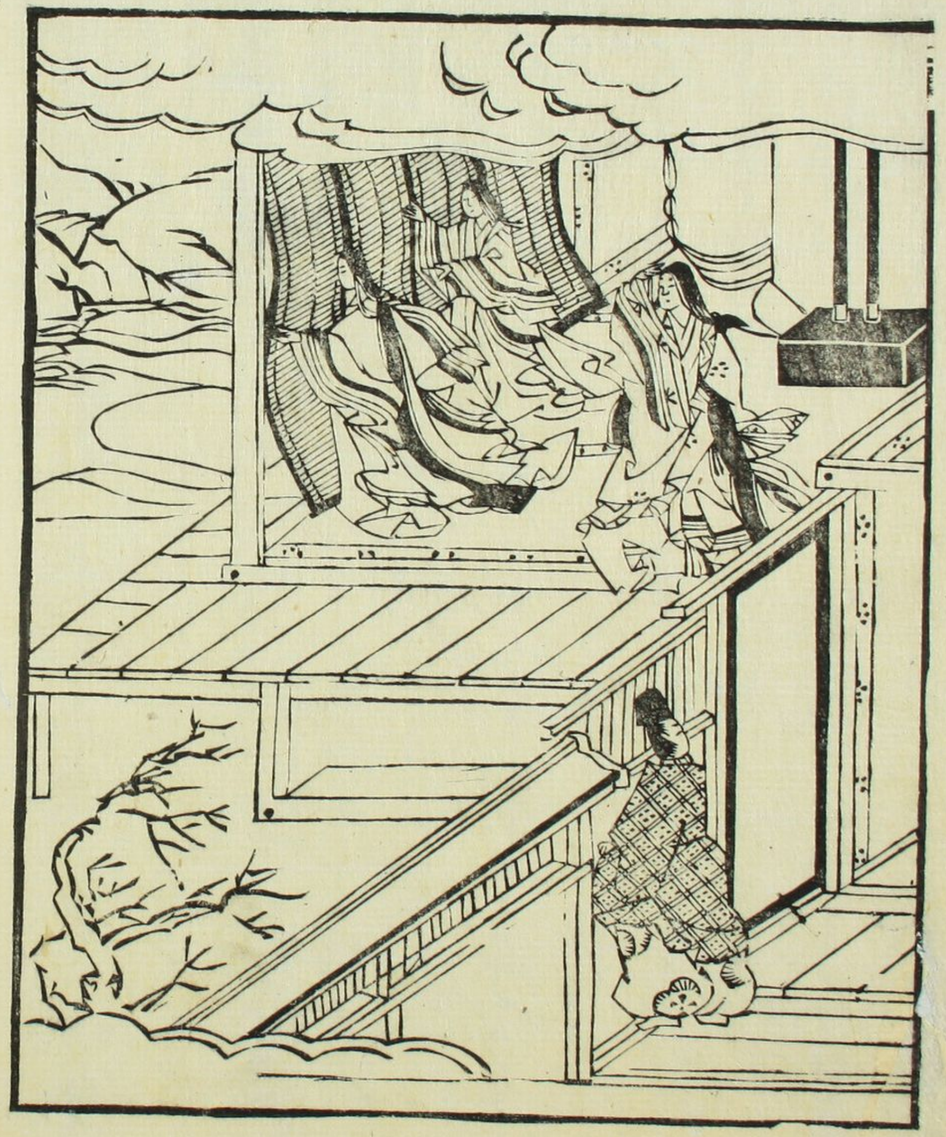
[illegible]



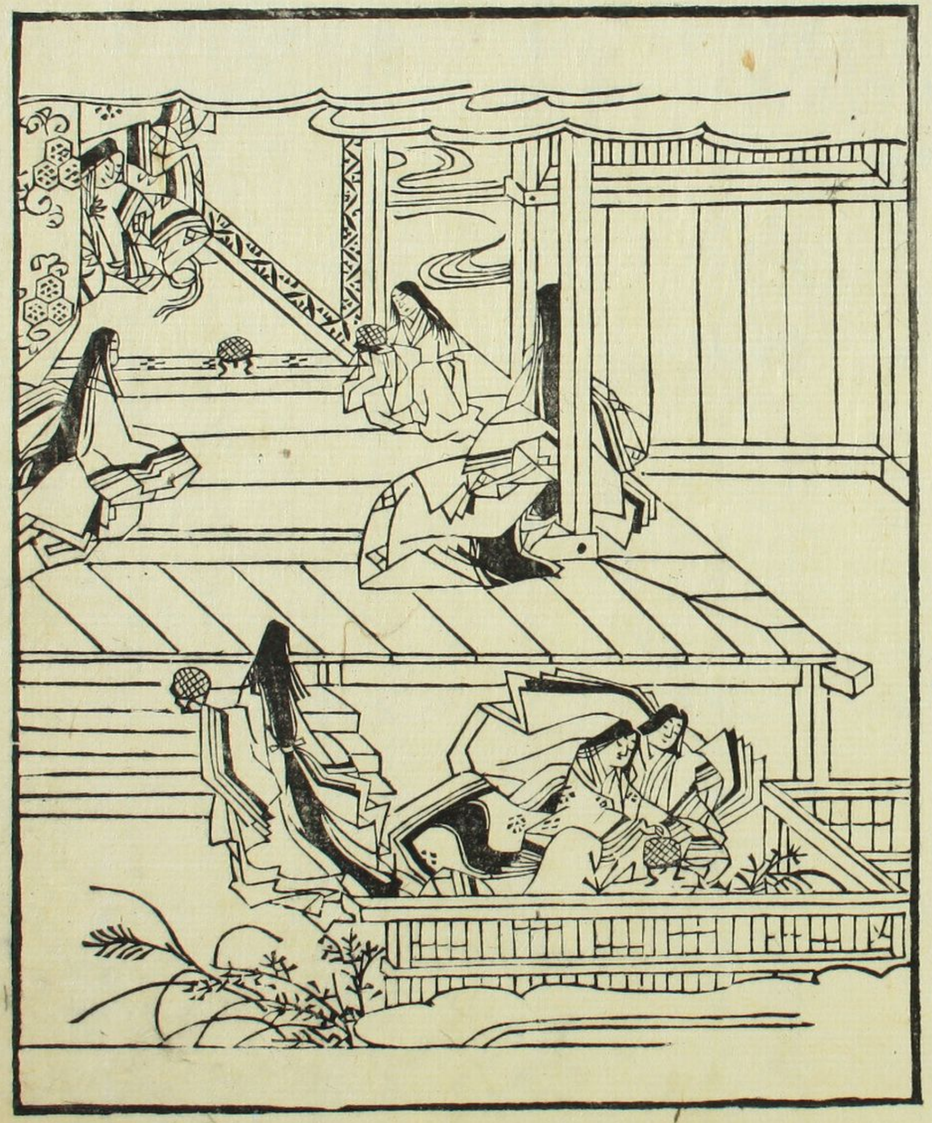
あのたのかた[illegible]
かりやそうしれく[illegible]
うんそ[illegible]
[illegible]原中ぐん[illegible]
[illegible]
[illegible]

野分　月秋　八朝

中宮の内の人々秋の宴をしたまひあるべきの
[illegible]
[illegible]
[illegible]



花のこの
花とも花ともなくうつくしくて見すてて入給ひぬる所
乃母房のまうさるやうはきさらぎのつごもりの
ころすぎ原ぬけぐるまでやうつくしくあり
ものをとてたちさわぎあの所なる
やうにてをかしくもみえたりとてうれたく
やすらはせたまふいまはまうてこむ
とてあるべきにあらねばとて
つまの戸たてわきてうちなげきたまふ原
花のこの母
あの大きなる木のもとにとどまりぬとて
おのれ大きなる木の枝の
おもしろくさきたる



源氏ものがたりの五十四帖のうちの
はつ音のあけぼのの巻にいはく
うぐいすのなくこゑもいとなつかしう
をとなひたりしあけぼのの
あはれなりしをりをもとの
ちりくるはなのかをりにつ
とりくるはるのあさぎり
とりぬぎこそうすけれ
はるの
大くるしあけぼのとはいふ
ひとけ
あのたいくとと思ひあつけるこゑと
ぐていまそかるとんぼ

源入道殿つけてはしりまゐるすがたもいとうつくしう
えもいはぬにほひにて見まゐらせたまふ
はしりかくれぬべきかとおぼしたるやうにて
うちまもりたまへるいとをかしげなり
丁ひきあげたまへるやうにて
かくれたまへるをいとあはれとおもひきこえたまへる
ものすさまじうなりぬべきをいとかくて
しばしもとどまりたまはぬ
をとしつきはけしきまさりたまへるかほ
さまにてうちかたらひたまふ
やまひのことなどのたまふ

源

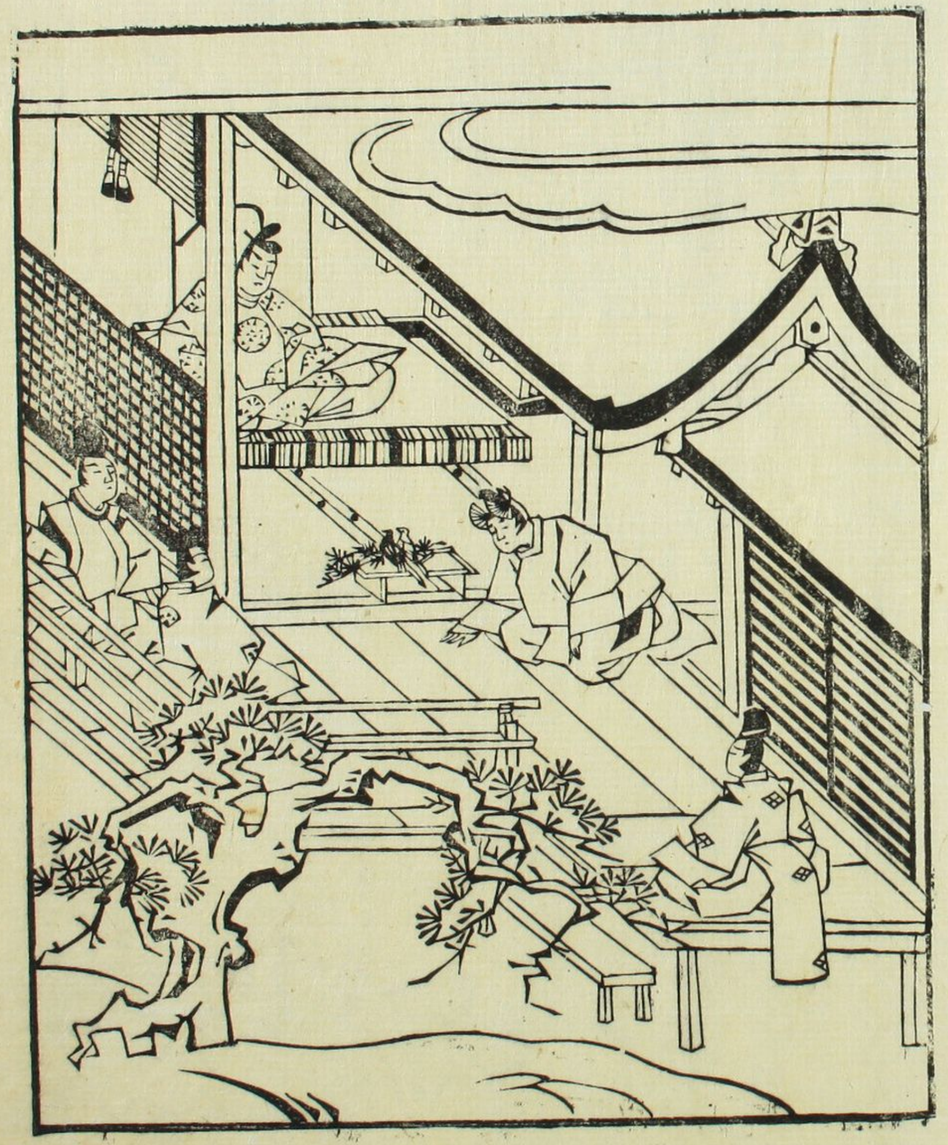
たまへりしかばかくてはいかでかはとおもひたまへ
しかどみるかひなくなりにけるこそ
あはれなりけれ
ものはかなくなりにしかばとてなほ
あはれにかなしくのみ
おもほえたまふ
源

ちりぬるをあはれとはいとはるかにこそ
おもほえたまへ
ちりぬるをあはれとはいとはるかにこそ
おもほえたまへ
ものはかなくなりにしかばとてなほ
あはれにかなしくのみ
おもほえたまふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]



しまだいこんのぞくへなくはなはだ右ちゃ
あぐるとのてつまつまてくるくるひげぐらま
てかつきの所源六郎はよくはみきくぐ物を
ぬもせずて義人のたまつのぞくれば
一えつさ源氏ぬもせず
御
宮山つきのようにかきつけ乃
山つきあるかけはたつよ
源六郎
年ゆきつるわるかくよ
くつうちやなくうん

みの日源氏ものうちの人〻ものしたまへるを
ものうの人〻の事ハいとあつかの四人〻
うらきしし給ひてもとのきうに
うやうやしくもれひらやうん
源
あるひとのひらいそしくのをの
かたてものきまめかきしもん
ものれすだの事二月のあるとひにこのひ
又ものとあまいたいそのうとうなやれ
夕方をもうしろうこのあるまいたいこ世よ
とうてうらふのあの事あるてんと事して
源氏ものもはいたいこのあるうひけうそう

かうう夕方とをもれすだ四大臣のいんとの子
との事をかうはいはいの源もものうのきて事
久〻四位の方れすをたいこ大臣やうたいこう
四のかうへ四位のあまをこ方事と姫君のものん
とおりのうう事作うう前をあたいこ人〻事
人〻五位の人〻中の中ある毎年のかとけよ人
ものうへ人〻ものうてけうひけうひけうあ
言いまの四位殿してものの事のうう行へを
奥
おうれよめうにもけうけうけうけうけ
六条院
六条院をもひうきうやけうこれをうたいこ
のひうのうのうのうのうのうのうのうのうのう

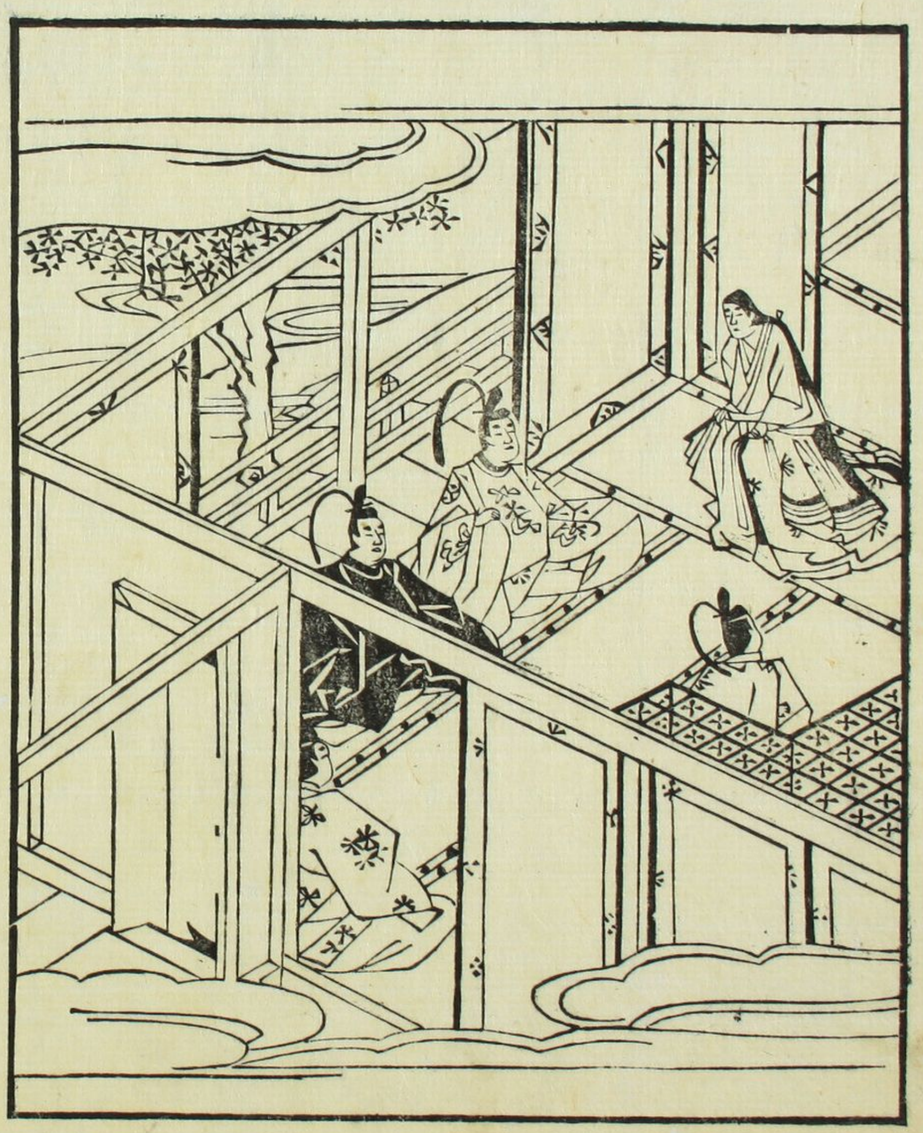
[illegible]

[illegible]

[illegible]

あまくものけさうにて
行ちかいのうちにて
て女房の御人（上中略）
ぞうと殿ハ此ほうけ行る御まもとう
殿（内侍）内侍のかみとうとうきゝ給て
きくと女房とうとうかうまハ柏中納言
内侍のうへ御ぶくをひぐう
御ぶくとけうとう内侍と乃給（内侍）殿にて中納
言とうとうくハおうとすきせらるゝ
新中きゝ殿のうらうあのうしとうり
へぐ所（上略）内侍のうへ御ぶくを

中ゝ給て女房せうのうへ山のぞうを
きゝ中ゝうのて（内大臣）やうへとうとうもうをのん
うへをけ見ん世ん（上略）とうとうもうをのん
やまと（内大臣）ハあくゝもつぐ給ん内ひしき
御ハ殿うゝやまあ世給てとの給へし
うゝれ北のうしうとうきくせてゝ三の人
くゝ殿ハあしうきりうへあつのきゝ
みうとあとうの給（上略）

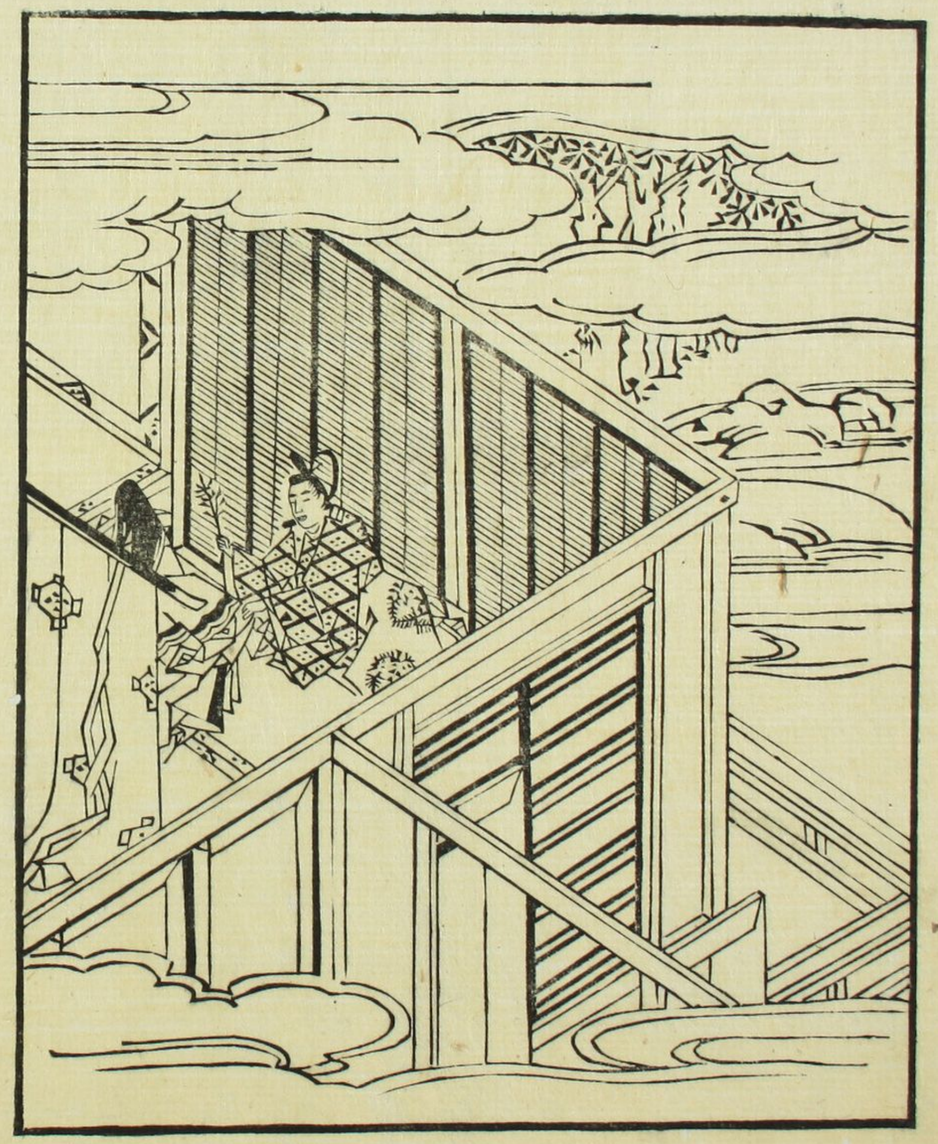


栄　源氏七十八　八月　八月初午ころ

内侍のかみの五みやつかへのすがおもいうるもんをおぼ
さわてかろかろしき海ものに事ハかけまとおく
乃むつかしきれんぢ人といひつつそよつきてを
るまんぢうくありもを列へあとに初て文れたくい
源のかまてに五源氏をかくれそをみよ
くろ〳〵ひきゝ公今ふらうちのちけざやき源氏
へきまものあらねどたづれかて明よきうぐ公
むしかりかる大文字月すれ世源氏も
あびろよ屏つき寄おれ申ものも多の例
こまやろかな御すきにく内侍の乃

四位より五位にうりのぼりたる人の
ゝ位をつけてもかの殿ふれあるこの四位あさなん
よりうりて位あるべしたちそひて人々夕方はきうす雨と
位つる事わうと宣旨きぐていらうさ人ゝきうぞ
きて四位殿ぬうよそぐこあうそうせうそこ
をつぎゝしうとうつけてさまやうふやまを位よ
いうゝ位うんよりもかなく思ひやゝあまつるいてうつく
しいぐも山月さうしあるせうゝへうたびし
まうしうるうみゝうぐうしあうゝぎあの多く
をえゝて思ふへうまゝけまゝの位ゝ位のてよ
らめの花をみゝうのつまうゝうゝ山行へいうろ

あうゝ位紅をうごうゝく夕雪
位る鄙乃長ゝ屋つゝ宿ゝ雨
あうゝれゝ如けよ、かゝてゝうゝも
多つのうゝうのゝ位人の春なゝん
うゝもゝうゝやかゝてゝあうゝます
いまうゝうゝまうゝけまでおやゝま
かやゝまゝて人ゝて位のまゝいゝうゝ
うげゝてゝうゝ



[illegible]
しくらのかくそんのようすがくよせあるよび
行へど吉野の陰とせんとかくまき事か
まことにいとゝうれしかりける
[illegible]
[illegible]

いとせめてきみをとゝうねすて
たゝしらにはまもひ有る
むまひとうみをいとてはいまは
しくしくをたまもとゝ
[illegible]
大内の中めとつるよびとうにかゝもの話
むかしやつとへとゆうびょうまがよりにたな

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

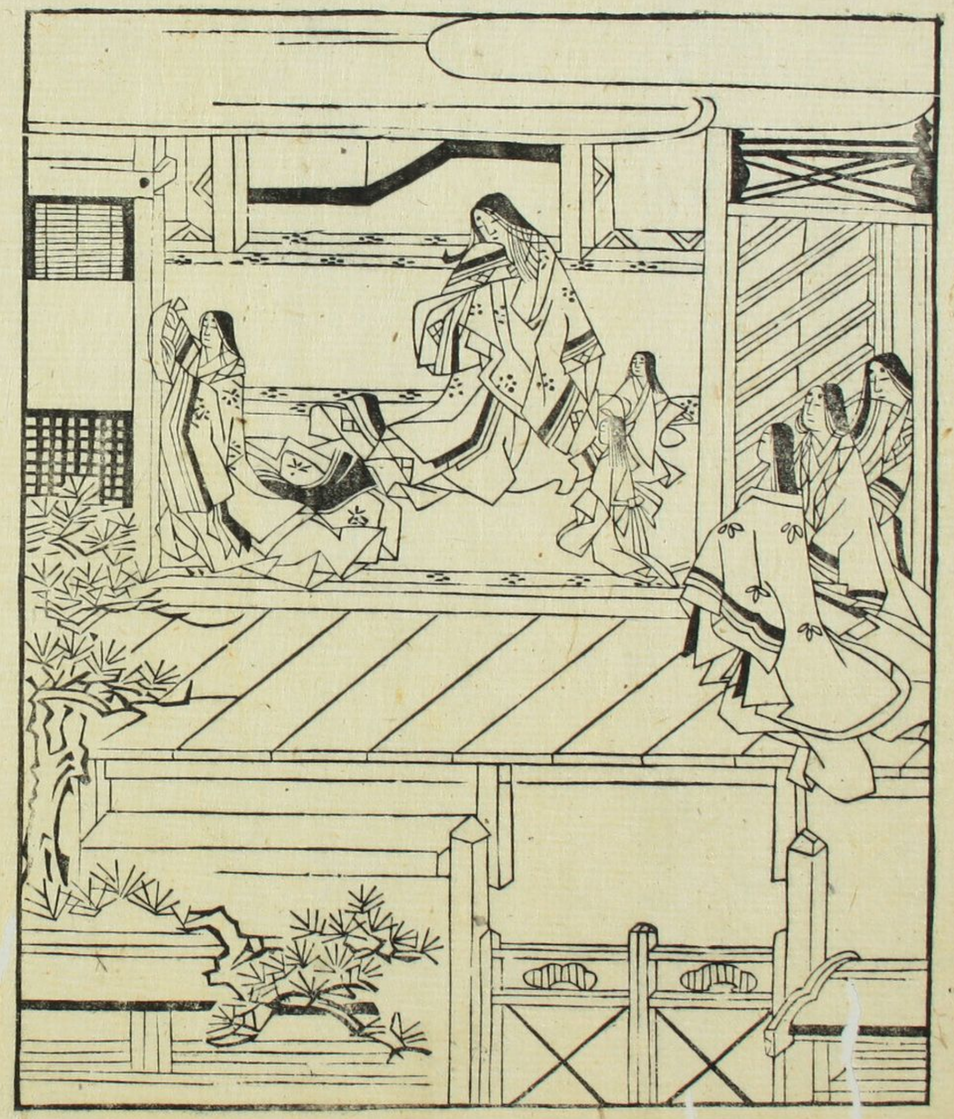
[illegible]

[illegible]

[illegible]

たちうはきをかしこまりて
二人をんなかけるをとこ
はぐりいなどくさぐさ
中納言殿のたまはせ
へよとのたまはせけ
わりなくとかきあつ
て姫君のもとへ
うのうへ三位殿
はるかにおぼえ
乃母をとこ
多の事にいとうは

たまはせ
姫君
とてをとこ
まことにうれしく
なれをとい
うとはきこえ
中納言
ものはいはせて
とかくいとも
けさむへくも
世事引はかりの
をとこ



乃女院、中納言、宰相の中将、三人ばかりぞ
ものしたまひける。殿上人、
三位、四位、五位、六位、
まことなく、ねんごろに、
乃ちかとのたまふ。
うへ、日ごろもなほ、
ぐしたてまつりの御
かたちうつくしげなる。
なかなかうちとけたる。
ものしたまへ。
殿の四位、三位、
いとをかしげなる。

大将御
のぞきたまへば、
あやしの
をかしうはべりけるかな
右近、
つねなる
かたちうつくしげなる。
ものしたまへ。
なかなかうちとけたる。

[illegible]人をきのとしりぬるや
[illegible]まつまのかりつるを見ぬよはけてよ
[illegible]みてのうたたねにけさ
いそそこるやまふきの花
時のをりなれば[illegible]てはつるを惜
[illegible]しかしの見てよとうれ
[illegible]人うらみてさそふ
大和人[illegible]はかりて
[illegible]しかしのるれ
いにしうらかとへき
[illegible]

[illegible]かつき[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]